

入選

私たちに見えない水

今日も食卓においしいごはんが並ぶ。このごはんを陰で支えているものがある。それが「バーチャルウォーター」だ。

みなさんはこの「バーチャルウォーター」という言葉を、聞いたことがあるだろうか。バーチャルウォーターとは、食料や製品を輸入する際、その生産に必要なとされた水を推定した「見えない水」のことである。

私が初めてバーチャルウォーターという言葉を知ったのは、小学生のときだ。授業で水について調べる機会があった。環境省のデータによると、牛肉100gを生産するのに約二千六十Lの水が使われていたり、スマートフォン一つに約千二百Lの水が使われていたりして、とても驚いたのを今でも覚えている。バーチャルウォーターは日本に深く関わりがある。食料自給率が三十八%と低い日本は、食べ物の多くを輸入に頼っている。そのため、「日本国内で使う水の量」よりも多い水の量を、海外から食べ物を通じて輸入しているという、世界でもトップクラスの水輸入国だ。このバーチャルウォーターによって大きな問題が発生している。

これの何が問題なのか、と思う人もいるだろう。しかし、世界で水不足が進むと輸入に頼っている日本は、真つ先に食料不足になってしまう。さらに、日本が海外の安い食べ物を買うことで、もともと水が足りない国の農業用水を使い果たし、現地の人を困らせる可能性がある。アメリカのカリフォルニア州では、日本が多く輸入するアーモンドを生産している。そのため実際に深刻な干ばつや地盤沈下という大きな環境問題が発生している。だから、私達は、日本の食料自給率を上げ、海外からのバーチャルウォーターを削減していかなければ、将来的には生活していけなくなるのだ。

そこで私は、日常で取り組めることを考えてみた。まず一つ目は食

べ残し、廃棄をゼロに近づけることだ。私は食べきれなかったご飯を捨ててしまうことがあった。でも今はそのご飯だけではなく食材に使われた、バーチャルウォーターも考えて食べるように意識するようになった。二つ目は旬のもの、地元のを食べることで、地産地消をし、海外の水への依存を減らすことだ。少しずつでも続けていくことがとても大切なことだと思う。

考えてみると私達が知らないところでも、水は大量に消費されている。「バーチャルウォーター」の問題を完全に解決することは難しいが、大幅に改善することはできる。日本生産と海外輸入のバランスが大事になってくると思う。水は私達が生きていくために必要不可欠であり、有限だ。そのためには、私達一人一人が削減に向けて取り組んでいくことが重要である。そうすることで、社会に大きな効果や影響を与えることが出来る。私は自分に出来る小さなことでも積み重ねていきたい。

あなたも、明るい未来を目指して「バーチャルウォーター」について考え、自分に出来ることを実践しませんか。

小矢部市立津沢中学校 三年 長谷川 心優